

WHAT'S NEW

発行 新渡戸文化学園
新渡戸文化短期大学

※ホームページに掲載しています。

臨床検査技師国家試験の新卒合格100%を達成しました。

第58回臨床検査技師国家試験の合格発表が3月末にあり、本学は新卒の合格100%を達成しました。これは2006年以来の快挙です。全国新卒平均は90.6%でした。昨年は82.5%(全国新卒平均は83.4%)でしたので、今回は学科を挙げて全員が国試を合格するよう取り組みました。成績が伸びない学生に対する特別講義、弱点科目を強化するための模試、少人数によるチュータ制の実施、出来ていない科目のオーダー模試を作成し出来ていない問題を再認識させました。それに対し学生同士お互い励まし合い、頑張ったのが今回の結果に繋がったと思います。



本年も臨床検査学科は就職100%となりました

本学科では、毎年希望する全ての卒業生が就職しています。また、多くの学生が自分の就職した病院や企業に満足しています。3年次に履修する病院実習を受けている病院の質の高さがその一因と考えています。名前を聞けば誰もが知っている日本を代表する一流の病院で最新の医療に身を置くことにより、本学で学んだ学問、技術が実践的な力となっています。このことにより学生のモチベーションが向上し、医療人としての意識が生まれるのだと思います。

本学科の就業力は、基礎教育と臨地実習での実践的教育によりもたらされています。今後も、1年次より病院見学や就職説明会などの教育を重ね、学生が望む一流の病院や企業に就職ができるように指導していきたいと考えています。

臨床検査学科の藤田先生が教授に就任しました。



2012年4月から藤田先生が臨床検査学科 教授に就任されました。先生は昭和大学 藤が丘病院で血液腫瘍や先天性疾患の遺伝子・染色体検査を担当し、臨床に貢献されました。日常業務の傍ら1992年に東京理科大学理学部を卒業後、学術研鑽のため昭和大学医学部内科学教室研究助手となり、「白血病の分子細胞遺伝学的解析」を研究テーマに2002年に博士号を取得しました。22年間の臨床経験を教育に生かすため、2007年に本学臨床検査学科准教授に着任しました。これまでの研究成果は2005年に日本臨床血液学会MDS特別賞、2011年に小島三郎記念技術賞としての評価を受けています。藤田先生は「時代に即し、真に実力のある医療人育成のため力を注いでいきます」と力強くコメントしています。

臨床検査学科の尾形先生が准教授に就任しました。

尾形先生は、1983年银杏学園短期大学(現熊本保健科学大学)を卒業し、東海大学医学部附属病院病理診断科に就職し、日本病理学会の前理事長で本学客員教授の長村義之先生や酵素抗体法の生みの親であるポール中根先生に病理診断の生検、病理解剖、酵素抗体法等病理学を学びました。その間、国立がんセンターの細胞診養成所を卒業し、細胞検査士資格を取得しました。1990年から18年間江戸川医師会医療検査センターでプライマリー医療の現場を経験し、2008年4月本学に専任講師として赴任しました。放送大学修士課程では、日本公衆衛生協会理事長の多田羅浩三先生に師事し学問の奥深さと面白さを学びました。尾形先生は「これらの経験を活かして学生教育に励みたい」とコメントしています。

